

釧路湿原川レンジャー News

2023 Vol.3

第2回「釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました！

「第2回釧路湿原川レンジャー学習会」を令和5年7月26日に開催し、14名が参加しました。今回は、午前中に瀬文平橋上流左岸の中洲において釧路川の「水質・水生生物調査」を実施し、午後は標茶町博物館「ニタイ・ト」を観覧しました。

今年の「水質・水生生物調査」は、標茶町内小学校1～6年生の26名も参加し、4年ぶりに小学生と一緒に調査を行うことができました。気温が高い状況での調査となりましたが、楽しく調査を行いました。午前の部の最後に、標茶町産の牛乳を片手に記念撮影を行いました。



位置図



小学生たちと一緒に標茶町産の牛乳を掲げて記念撮影

■ 北海道開発局による「水質・水生生物調査」の実施について

北海道開発局では、毎年、北海道の主な河川で地域住民の方々と一緒に河川の水質調査を実施しています。平成17年からは釧路湿原川レンジャーも学習会として参加し、今年で17回目になります。この調査は、川の水質を参加者が直接確認することにより、川に対する関心を高めることを目的としています。

■ 標茶町を流れる釧路川の調査の実施状況について

◆ 6班に分かれて以下の調査を行いました。

- ① 「川の水質を調べよう」
(pH、溶存酸素量、アンモニウム態窒素など)
- ② 「川の生き物を調べよう」
(川に住む生物を捕まえて観察し、川のきれいさを判定するなど)

① 川の水質を調べよう



pH等の測定

② 川の生き物を調べよう



生き物の観察

調査結果

今回の調査結果を表にまとめました。
『豊かな生態系の確保』において、溶存酸素量やアンモニウム態窒素を調べた「①川の水質を調べよう」、川に生息する生き物をつかまえて調べた「②川の生き物を調べよう」の項目は、いずれもAランクになりました。

標茶町に流れる釧路川が非常に良好である結果となりました。これからも、きれいな釧路川を守っていきましょう。

表 豊かな生態系の確保(生き物の住みやすさ)の調査結果

ランク	説明	①川の水質を調べよう		②川の生き物を調べよう
		溶存酸素量 DO(mg/L)	アンモニウム態窒素 NH ₄ -N(mg/L)	水生生物の生息
A	生物の生息・成育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	I. きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビケラ 等
B	生物の生息・成育・繁殖環境として良好	5以上	0.5以下	II. 少しきたない水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ 等
C	生物の生息・成育・繁殖環境として良好とはいえない	3以上	20以下	III. きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ 等
D	生物の生息・成育・繁殖しにくい	3未満	20を超えるもの	IV. 大変きたない水 ・セスジユスリカ ・チョウバエ 等

標茶町博物館「ニタイ・ト」の見学

午後は標茶町博物館「ニタイ・ト」（塘路）において、学芸員の方から展示資料や塘路地区周辺の遺跡について解説をいただき、その後自由に館内展示を観覧しました。博物館2階の展示スペースでは、標茶町周辺の遺跡やアイヌ文化、町の発展に関する農具・機械類などを観覧しました。

また、現在は標茶町博物館の館外施設であり、近代化産業遺産として標茶町指定文化財にもなっている「北海道集治監釧路分監本館」の一室にて、学芸員の方から本施設や標茶町、釧路の発展などについてご解説いただき、内部を観覧しました。本館は集治監（明治時代に設置された監獄の一種）の庁舎として明治19年に建てられました。明治34年に廃止後、明治41年からは軍馬補充部川上支部として終戦まで使用され、その後、北海道庁標茶農業学校（現標茶高等学校）庁舎として使用されました。昭和41年に標茶町文化財第1号に指定後、塘路に移築復元され、昭和45年から平成29年まで標茶町郷土館として使用されました。（パンフレットより一部抜粋して掲載しています）



博物館2階の展示を観覧する様子



北海道集治監釧路分監本館



本館の一室で解説を聞く様子

観察活動の報告

川レンジャーより観察活動の報告がありましたので、ご紹介いたします。みなさまからの活動報告をお待ちしております。

報告日	報告内容
令和5年6月22日	新釧路川左岸を観察しましたが、特に問題はありませんでした。
令和5年6月24日	新釧路川右岸堤防でヒナを連れたタンチョウを観察しました。